

恩納村博物館企画展「琉球芸能小道具と衣裳展 in ONNA」

今年度（2019年度）は、沖縄を代表する芸能の一つ「組踊」が初めて上演されてから300年の節目を迎えた年であり、各方面から沖縄の芸能が一段と注目された年となりました。

琉球芸能は、これまで先達からの技芸や様式美などを脈々と受け継いできましたが、それと同時に舞台上使用する小道具や衣裳等においても、琉球王国の歴史や文化を反映し、道具製作者は使用者が使いやすいよう工夫するなど、その歴史を重ねてきました。

今回、恩納村博物館では、この「道具製作」を継承する組踊道具・衣裳製作修理技術保存会と協力し、その琉球芸能に使用されている小道具と衣裳がどのように製作され、どのように舞台上で使用されているのかをご紹介します。「道具製作」をとおして、普段とは違った視点から琉球芸能をお楽しみください。



八チマチ



紅型衣裳

開催期間：3月17日（火）～4月11日（土）
 ※3月23日、30日、4月6日は休館
開館時間：9時～17時（最終入館は16時30分）
 ※3月2日のみ、サンセットコンサート
 開催のため19時まで観覧可能。

展示会場：博物館2階企画展示室

観覧料：無料

主催：恩納村博物館、組踊道具・衣裳製作修理技術保存会



紅型衣裳（乳白色）



大団扇



般若面



編笠